

登園や移動時間の活用



登園や移動時間を活用するポイント

「やってみたい」という気持ちを引き出す工夫

子供たちが取り組んでみたいと思えるような工夫をすることで、達成感や満足感が味わえるように考えましょう。運動が苦手な子供でも、「面白そう」「自分にもできそう」と思うような遊びを取り入れ、誰もが楽しく遊べる機会をつくります。

どんな工夫?

ケンパ遊び



●ケンパをしなくなる環境をつくる

保育室までのアプローチに、ケンパができるようにフープなどを置いておきます。室内の廊下の場合は、テープを貼るなどしてケンパができる円を作っておきます。



子供たちの動線を予想した場の工夫で、思わず体を動かしたくなる仕掛けをします。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

- 保育施設に来てすぐに、子供たちの目の前に遊びの場を提供することで、1日の活動の準備にもなります。好奇心旺盛な子供たちの挑戦する意欲を高めるために、「やってみたい」と思える環境を整えましょう。
- 置いてあるフープを子供たちが好きに動かせるようにしてもいいでしょう。自分の好きな道を作ることで、想像が広がり、ごっこ遊びや別の遊具との組み合わせに展開するきっかけになることが期待できます。

おはようボール



●遊びの要素を取り入れる

保育施設の入口など高いところからボールを下げておきましょう。高低差を付けて、子供たちの挑戦意欲をかき立てるようにします。ボールには、「お」「は」「よ」「う」の文字を一字ずつ書いておきます。子供たちはジャンプしてボールにタッチします。



幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

- 「おはようボール」で体を目覚めさせて、1日を元気よくスタートしてもらうことが狙いです。好奇心旺盛な子供たちの挑戦する意欲を高めるために、「やってみたい」と思える高さを工夫しましょう。ボールへのジャンプの仕方も、距離を取って走って勢いをつけてからのジャンプや、しゃがんだ状態からのジャンプなどに挑戦したくなるような配置を心掛けましょう。

移動時間・待ち時間の遊び



●からだじゃんけん

グーは、腕を胸に交差させ足は閉じる、チョキは両手を上に挙げて両足を縦に開く、パーは両手を広げて挙げ足は横に開くなど、グーチョキパーのポーズを決めて、じゃんけんをするように全身を動かします。



●動物歩き

園庭や散歩から帰る際に、動物になりきって歩き、普通に歩くよりもより体を動かすことにつながります。この遊びは、様々な移動のシーンで活用できます。



●「だるまさんがころんだ」で遊びながら移動

移動の際にいろいろな「だるまさんがころんだ」をやってみます。最後の「だ」のところで体を止めるだけでなく、「怪物さんが転んだ」などにアレンジして、思い思いの怪物のポーズで止まったり、鳴き声をまねしたりするなど、いろいろなテーマを考えてみましょう。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

- 待ち時間や移動の際に少しの工夫で多様な動きが経験できます。移動の時間が楽しいと、楽しい気持ちを保ったまま、次の活動につなぐことができます。